



実施生徒数	設問数	全国との差
6,005人	33問	1.7

分類		区分	設問数 (問)	全国との差
問題の内容	基礎 応用	基礎	23	1.4
		応用	10	2.2
	領域	聞くこと	10	1.1
		読むこと	10	2.1
		書くこと	13	1.7
評価の 観点		理解する力	20	1.6
		表現する力	4	2.3
		言語や文化の知識・理解	9	1.5
単元別		リスニング (絵や図表の選択)	2	2.0
		リスニング (質問に答える)	5	1.0
		リスニング (英文選択)	3	0.8
		読解問題(下線部の問い)	1	3.1
		読解問題 (英問英答)	1	2.9
		読解問題 (概要把握)	3	1.8
		読解問題 (情報検索)	2	1.5
		読解問題 (空所補充)	3	2.2
		語順整序問題	4	1.1
		語彙・語法問題	5	1.8
		英作文(空所補充)	2	1.4
		活用	2	3.1
問題形式		選択式	22	1.7
		短答式	6	0.8
		記述式	5	2.4



通し 番号	設問内容	基礎応用	出題形式	全国との 差
1	絵に合う状況(～の下)を表す英文を聞き取る	基礎	選択式	1.0
2	絵に合う状況(遊泳禁止)を表す英文を聞き取る	基礎	選択式	0.5
3	絵に合う状況(誕生日)を表す英文を聞き取る	基礎	選択式	0.8
4	質問(What ～)を聞いて適切な答えを選ぶ	基礎	選択式	-0.3
5	質問(Can I ～)を聞いて適切な答えを選ぶ	基礎	選択式	2.0
6	質問(Whose ～)を聞いて適切な答えを選ぶ	基礎	選択式	0.5
7	英文と質問を聞いて適切な答えの絵(時間割)を選ぶ	基礎	選択式	1.9
8	英文と質問を聞いて適切な答えの絵(したこと)を選ぶ	基礎	選択式	2.2
9	図表を見ながら対話と質問を聞き適切な学校行事を選ぶ	基礎	選択式	1.8
10	図表を見ながら対話と質問を聞き適切な学校行事を選ぶ	基礎	選択式	1.5
11	日本文の内容に合う単語(September)を書く	基礎	短答式	-3.1
12	日本文の内容に合う単語(brother)を書く	基礎	短答式	3.5
13	threeのあとに続く複数形orangesを選ぶ	基礎	選択式	0.1
14	動詞の過去形(studied)を選ぶ	基礎	選択式	3.6
15	主語が複数の場合のbe動詞(are)を選ぶ	基礎	選択式	4.6
16	whenと一般動詞の疑問文を正しい語順で表す	基礎	短答式	2.9
17	助動詞canを用いた疑問文を正しい語順で表す	基礎	短答式	-0.5
18	一般動詞の否定の命令文を正しい語順で表す	基礎	短答式	6.0
19	How manyの疑問文を正しい語順で表す	基礎	短答式	-3.9
20	Are you hungry?に対する応答文を書く	応用	記述式	1.2
21	応答文から、レストランに行く提案をする文を書く	応用	記述式	1.7
22	質問への答えを書いてチャットのやり取りを完成させる	応用	記述式	2.0
23	質問への答えを書いてチャットのやり取りを完成させる	応用	記述式	4.3
24	英語のちらしを読み、質問内容に合うものを選ぶ	基礎	選択式	1.4
25	英語のちらしを読み、質問内容に合うものを選ぶ	基礎	選択式	1.5
26	英語のブログを読み、適切な題名を選ぶ	応用	選択式	0.7
27	アンケート結果と会話を読み、空所に入る語を選ぶ	基礎	選択式	1.5
28	アンケート結果と会話を読み、内容が一致する文を選ぶ	応用	選択式	1.5
29	英文を読み、itが表す語句を選ぶ	基礎	選択式	3.1
30	英文を読み、内容が一致する文を選ぶ	応用	選択式	3.0
31	英文をまとめた文を読み、空所に入る語句を選ぶ	応用	選択式	4.0
32	英文をまとめた文を読み、空所に入る語句を選ぶ	応用	選択式	1.2
33	英文を読み、英語の質問に英語で答える	応用	記述式	2.9



【正答率が低い問題 下位3問】

通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
33	応用	記述式	2.9
設問内容	英文を読み、英語の質問に英語で答える		
課題及び授業改善の手立て	<p>「読むこと」の領域において、英文の内容を問うような質問に対して、英語で書いて答えることに課題がみられる。”Where does Aoi take pictures of her dog?”という質問に対して、主語と動詞を含む6語以上の英文で答えるように指定されている問題である。文構造や文法事項を理解した上で、正確な文の形で質問の答えを書くことに課題がみられる。</p> <p>⇒質問に対して書いて答え、書いた英文の正確さをグループ等で確認し、間違いに気付かせ修正させるような活動を通して、指導することが大切である。</p>		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
21	応用	記述式	1.7
設問内容	応答文から、レストランに行く提案をする文を書く		
課題及び授業改善の手立て	<p>会話の流れから、レストランに相手を誘う表現を書いて答える問題で、「書くこと」の領域において、会話の流れに沿って英文を書くことに課題がみられる。</p> <p>⇒ここではこのように会話の流れを読み取り、その内容をもとにふさわしい文を書いて表現する複数の技能を統合させた力を問う活動については、普段から意識して授業に取り入れて指導することが大切である。</p>		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
32	応用	選択式	1.2
設問内容	英文をまとめた文を読み、空所に入る語句を選ぶ		
課題及び授業改善の手立て	<p>中学生のアオイが大切にしているものについて書いた日常的话题をテーマにした長めの英文の概要を把握し、簡潔にまとめた内容の()に当てはまる語を選ぶ問題で、「読むこと」の領域において、英文の内容を簡潔にまとめることに課題がみられる。</p> <p>⇒登場人物などについての情報を時系列で整理しながら、英文の概要を把握する活動を通して、読解力を身に付けさせるための指導をすることが大切である。</p>		

【全国平均と差がある問題 上位3問】

通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
18	基礎	短答式	6.0
設問内容	一般動詞の否定の命令文を正しい語順で表す		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
15	基礎	選択式	4.6
設問内容	主語が複数の場合のbe動詞(are)を選ぶ		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
23	応用	記述式	4.3
設問内容	質問への答えを書いてチャットのやり取りを完成させる		



【全国平均と差がある問題 下位3問】

通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
19	基礎	短答式	-3.9
設問内容	How many の疑問文を正しい語順で表す		
課題及び授業改善の手立て	<p>「言語や文化の知識・理解」の領域において、疑問詞を用いた疑問文を正しい語順で表すことについて課題がみられる。” How many sisters do you have?” と並べ替える問題だが、疑問詞＋名詞で始まる文の形を理解していない。この形の文は小学校外国語の段階から何度も話して聞いて、やり取りの中で使ってきている表現にも関わらず、書いたり並べ替えたりすることになると経年的に課題がみられる。</p> <p>⇒やり取りをした後に話したことや聞いたことなどを書き、その正確さを確かめる場面を通して、指導することが大切である。</p>		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
11	基礎	短答式	-3.1
設問内容	日本文の内容に合う単語 (September) を書く		
課題及び授業改善の手立て	<p>「言語や文化の知識・理解」の領域において、日本文の内容に合う単語を書くような語彙力を問う問題において課題がみられる。「わたしの誕生日は9月8日だ。」のメモをもとに、” My birthday is () 8.” の () 内に、” September” を書く問題である。日付や誕生日については、小学校外国語の段階からよく話したり聞いたりしてきている内容であり、9月を音声としては認識し理解してはいるが、音声と文字を一致させて書く際の語彙力という知識の点において、課題がみられる。</p> <p>⇒習った単語を、話すことや書くことを通して何度も繰り返し使用できるような場面を設定し、語彙力を高めるための指導をすることが大切である。</p>		
通し番号	基礎応用	出題形式	全国との差
17	基礎	短答式	-0.5
設問内容	助動詞 can を用いた疑問文を正しい語順で表す		
課題及び授業改善の手立て	<p>「言語や文化の知識・理解」の領域において、助動詞を用いた疑問文を正しい語順で表すことについて課題がみられる。” Can you read it?” と、生徒たちが比較的慣れ親しんでいる助動詞 can の疑問文の形で答える場面なのだが、すぐ後の” ?” や” No.” に注意を払わず、肯定文の形の “You can read it.” と答えてしまう特徴的な間違いが多かった。文構造については理解しているが、会話の前後の流れをしっかりと捉えて理解するという点において課題がみられる。</p> <p>⇒普段の授業で、会話中における表現の適切さや正確さを確認できるような場面を通して、指導することが大切である。</p>		



【英語の学習に関する意識調査 結果 全国との差(ポイント)】

質問 番号	質問内容	よくあてはまる	ややあてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
1	外国の人々との交流などを通して、外国の異なる文化に対する理解を深めようとしている。	4.0	-0.4	-1.9	-1.1
2	日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、外国の文化に対する理解を深めようとしている。	4.6	-0.8	-2.1	-1.0
3	関心のある事柄について、相手からの質問に対し、相手に伝わるよう英語で話すようにしている。	3.0	0.9	-2.6	-0.8
4	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、相手に伝わるよう英語で話すようにしている。	3.0	2.5	-3.2	-1.7
5	趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を相手が読んでわかりやすいよう英語の文で書くようにしている。	5.5	-1.0	-2.9	-1.0
6	話し手の立場に立って相手の意見や考えを理解するために、英語で聞いたり、質問したり、意見を言ったりしようとしている。	4.9	-1.4	-2.1	-0.8
7	書き手の立場に立って、読んだことについて英語で質問や意見を言ったり、書き手が望む情報を提供するために交流したりしている。	3.3	4.2	-4.5	-2.2



課題の見られる設問

9 (3) B

<問題の概要>

大切にしているもの (treasure) をテーマに書かれた少し長めの文章を読み、その概要についてまとめた英文の () 内に当てはまる単語を選択肢の中から選んで答える問題。

正答率

山梨県の正答率： 40%以下

分析と課題

- 山梨県の正答率は全国の正答率を1.2%上回っているが、選択肢のある問題の中で、山梨県・全国共に正答率が最も低い問題となっており、課題が見られる。
- ある程度まとまりのある文章を読む際に、ただ漠然と読んでいるため、登場人物や、時系列、キーワード等の必要な情報を読み取ることができていない。
- 読むことに関する指導においては、生徒と文章の内容に関するやり取りを通して、テーマや読み取るポイントをはっきりさせながら、読ませていくような工夫をする必要がある。

普段の学習で...

- 文章全体を漠然と読むのではなく、**テーマや読み取るポイントをはっきりさせて読む**ことが大切。そのためには、**教師が生徒たちの理解を深めるために発問の工夫**をする必要がある。

例：環境問題についての文章を読む活動で



Do you know 3Rs?



Yes. Reduce, reuse, and recycle.

What can we do to save the earth?
Today, let's read about that.



① **テーマとポイントを確認してから**読ませる。

What are the keywords in this text?
Share your ideas with your partners.

Environmental
problem...



Save the earth.
Reduce, Reuse

② 生徒とやり取りをしながら、**キーワードを板書等で全体に示して、情報を整理**する。

③ **キーワードや出てきた表現などを使いながら、友だちに文章の内容を英語で説明**させる。



Next, explain the content of this text to your partners.



I think...

The environmental problem is a big problem.
We have many things to do for the earth.

④ 1回目の活動後、**全体で表現などの確認**をする。その後、**ペアを変えてもう一度活動**させる。

授業改善の
POINT

- 文章のテーマや読み取るポイントを確認する。
- 事実を確認する発問、本文から推論する発問、自己に関わる発問など、理解を深めるために教師が発問の工夫をする。
- さらに理解を深めるために文章の内容を英語で友だちに説明するなど、様々な活動を仕組む。(Retelling 活動など)

教育課程実施状況調査



「外国語理解の能力」が良好である

- ・中3英語Aは、教科全体の正答率が66.1%で、目標値を3.3ポイント上回った。
- ・観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「外国語理解の能力」が69.4%で、目標値を3.5ポイント上回った。

対称生徒数	設問数	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率
625人※	32問	66.1%	62.8%	3.3	62.9%

※英語A英語B受験者合計

種別		設問数 (問)	県正答率 (%)	目標値 (%)	県-目標値 (ポイント)	全国正答率 (%)	
問題の内容	基礎・活用	教科全体	32	66.1	62.8	3.3	62.9
		基礎	20	70.8	67.5	3.3	67.8
		活用	12	58.2	55.0	3.2	54.8
	領域	聞くこと	9	71.9	70.0	1.9	70.0
		読むこと	14	66.1	62.1	4.0	63.4
		書くこと	9	60.2	56.7	3.5	55.1
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	14	63.3	61.1	2.2	59.3	
	外国語表現の能力	11	53.3	50.6	2.7	47.6	
	外国語理解の能力	17	69.4	65.9	3.5	67.3	
	言語や文化についての知識・理解	10	69.5	66.5	3.0	66.9	
解答形式	選択式	21	71.4	67.9	3.5	69.2	
	短答式	5	70.8	66.0	4.8	68.2	
	記述式	6	43.4	42.5	0.9	36.7	

設問別正答率

通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域			出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		関	表	理	知			聞	読	書				
1	選択	○		◎			リスニング (内容理解)	○			絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(動作と物)	76.5	70.0	73.8
2	選択	○		◎				○			絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(したいことやほしい物)	97.1	90.0	96.1
3	選択	○		◎				○			絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(比較級・最上級)	68.5	70.0	70.8
4	選択	○		◎			リスニング (対 話文の応答)	○			対話の内容を聞き取り、適切に回答することができる。(見せてくれませんかとたずねられて)	70.3	70.0	67.3
5	選択	○		◎				○			対話の内容を聞き取り、適切に回答することができる。(通学手段をたずねられて)	84.3	75.0	72.4 ①



中3英語 A



通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域			出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		関	表	理	知			聞	読	書				
6	選択	○		◎			リスニング(対話 文の応答)	○			対話の内容を聞き取り、適切に 応答することができる。(だれのギ ターかとたずねられて)	85.1	80.0	83.6
7	選択	○		◎		思	リスニング(さ まざまな英文の 聞き取り)	○			英文の概要を聞き取ることが できる。	82.3	85.0	79.5
8	選択	○		◎		思	リスニング(さ まざまな英文の 聞き取り)	○			英文の要点を聞き取ることが できる。	62.1	60.0	66.9
9	記述	○	○	◎		表	リスニング(対 話文の応答)	○			対話の内容を聞き取り、資料をも とに英語で答えることができる。	21.3	30.0	19.5
10	選択				◎		語形・語法の 知識・理解		○		語形・語法を理解することが できる。(be 動詞の過去形)	51.2	50.0	48.2
11	選択				◎				○		語形・語法を理解することが できる。(不定詞の副詞的用法)	56.8	55.0	51.5
12	選択				◎				○		語形・語法を理解することが できる。(must の否定文)	53.0	55.0	51.2
13	選択				◎				○		語形・語法を理解することが できる。(more を使った比較級)	75.6	75.0	72.3
14	選択				◎		語彙の 知識・理解		○		対話文の情報を正しく読み取 ることができる。	71.6	70.0	68.5
15	選択				◎				○		英文の情報を正しく読み取る ことができる。	84.0	75.0	82.1
16	選択			◎		思	さまざまな英文 の読み取り		○		英文と情報・条件をもとに、適 切なものを選ぶことができる。	91.4	80.0	90.9
17	選択			◎		思			○		英文の情報・条件をもとに、適 切なものを選ぶことができる。	86.9	75.0	84.5
18	選択			◎		思			○		対話の流れと資料から、適切 な語を判断することができる。	64.1	60.0	59.5
19	選択			◎		思			○		対話の流れから、登場人物の 適切な発言を判断することが できる。	61.0	55.0	61.7
20	選択			◎			長文の読み取り		○		下線部 that が指す内容を把握 することができる。	63.4	65.0	63.4
21	選択			◎					○		メールの内容を把握することが できる。	53.4	50.0	49.6
22	選択			◎					○			61.9	60.0	58.6
23	短答		○	◎		思			○		読み取った内容をふまえて、 英文を完成させることができ る。	50.9	45.0	45.9
24	短答		○		◎		単語の並べかえ による英作文			○	英文を正しい語順で書くこと ができる。(have to ~ の否定文)	79.8	75.0	73.2
25	短答		○		◎					○	英文を正しい語順で書くこと ができる。(動名詞の疑問文)	84.9	75.0	77.7
26	短答		○		◎					○	英文を正しい語順で書くこと ができる。(be going to の疑問文)	89.1	80.0	88.7
27	短答		○		◎					○	英文を正しい語順で書くこと ができる。(look (SVC) の否定文)	49.2	55.0	55.7
28	記述	○	◎			表	場面に応じて 書く英作文			○	対話の流れに合った英文を書 くことができる。(when を使っ てときをたずねる)	25.9	30.0	21.2

①

教育課程実施状況調査



通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域			出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均	
		関	表	理	知			聞	読	書					
29	記述	○	◎			表	場面に応じて 書く英作文			○	対話の流れに合った英文を書く ことができる。(whyを使って理由 をたずねる)	21.4	30.0	14.2	②
30	記述	○	◎				3文以上の 英作文			○	一番好きな季節について、好きな 理由や説明を含め、まとまった3 文以上の英文を書くことができ る。	60.2	55.0	51.8	
31	記述	○	◎			表				○		70.2	60.0	62.2	
32	記述	○	◎			表				○		61.4	50.0	51.3	②

①②は目標値を上回る設問を、①②は課題となる設問を示している。

【目標値を上回る設問】① 通し番号5

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	84.3	75.0	9.3	72.4	11.9	理	選択
問題の内容	リスニング (対話文の応答)						
出題のねらい	対話の内容を聞き取り、適切に回答することができる。(通学手段をたずねられて)						

【目標値を上回る設問】② 通し番号32 (テーマに沿って、3文以上で書かれている。)

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	61.4	50.0	11.4	51.3	10.1	表	記述
問題の内容	3文以上の英作文						
出題のねらい	一番好きな季節について、好きな理由や説明を含め、まとまった3文以上の英文を書くことができる。						

【課題となる設問】① 通し番号9

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	21.3	30.0	-8.7	19.5	1.8	理	記述
問題の内容	リスニング (対話文の応答)						
出題のねらい	対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答えることができる。						

【課題となる設問】② 通し番号29

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	21.4	30.0	-8.6	14.2	7.2	表	記述
問題の内容	場面に応じて書く英作文						
出題のねらい	対話の流れに合った英文を書くことができる。(whyを使って理由をたずねる)						



授業改善の POINT

○調査結果をふり返っての考察

ほぼ全ての項目において、目標値と全国平均を上回っていて、いずれの観点・領域においても、高い正答率を示している。特に、「聞くこと」「読むこと」の領域における「外国語理解」の部分で高い正答率を示しており、小学校外国語から英語を聞く場面に多く触れることで、英語を聞くことに慣れつつあることや、読む力を身に付けるために必要となる教科書等を読解するような場面での授業方法の改善等、様々な取組が成果となって表れて来たといえる。また経年的に課題のみられる領域である「書くこと」についても改善傾向がみられた。

しかし、複数の領域を統合させながら書いて解答するような問題において、課題がみられた。特に聞いたことをもとに書く場面や対話の流れに沿って書く場面など、複数の領域を活用しながら最終的に英語で書いてまとめるような力にはまだまだ課題が多く残っているといえる。

以上の考察をもとに、3つの視点から授業改善のポイントを示す。

○授業改善のポイント

「複数の領域を統合させながら、最終的に書いてまとめる力」を高めるために

(1) 日々の授業で複数の領域を統合させた活動を意図的に取り入れる

例えば、教科書等の内容について、読んだことをもとに自分の意見や感想を友達と話す。話したことをもとに、友達の考えも参考にしながら、自分の意見や感想を書いてまとめるような活動を行う。

(2) 教師の発問などを有効的に活用しながら、書く活動はステップを踏んで取り組む

例えば、書く活動を行う際に、いきなり題材を与えるのではなく、教師の発問を有効的に与えながら、やり取りをしていく中で、つながりのあるまとまった英文を書くことができるようなステップを踏んだ場面を作る。

(3) 書いた英文を自分たちで確認し、間違いに気付く場面を設定する

例えば、完成した英文をペアやグループ等でお互いに読み合い、間違いがないか確認し合う。特に多く見られるような特徴的な間違いは教師がクラス全体で取り上げ、共有するなどしながら、英文を自分たちの力で修正し完成していくような場面を作る。

教育課程実施状況調査



「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」が良好である

- ・中3英語Bは、教科全体の正答率が67.5%で、目標値を4.7ポイント上回った。
- ・観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「外国語表現の能力」が57.1%で、目標値を6.5ポイント上回った。また、「外国語理解の能力」において、70.4%と最も正答率が高く、目標値を4.5ポイント上回った。

対称生徒数	設問数	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率
625人※	32問	67.5%	62.8%	4.7	62.8%

※英語A英語B受験者合計

種別		設問数 (問)	県正答率 (%)	目標値 (%)	県-目標値 (ポイント)	全国正答率 (%)	
問題の内容	教科全体	32	67.5	62.8	4.7	62.8	
	基礎・活用	基礎	20	71.6	67.5	4.1	67.6
		活用	12	60.7	55.0	5.7	54.8
	領域	聞くこと	9	73.8	70.0	3.8	69.5
		読むこと	14	65.6	62.1	3.5	63.4
		書くこと	9	64.1	56.7	7.4	55.1
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	14	66.2	61.1	5.1	59.0	
	外国語表現の能力	11	57.1	50.6	6.5	47.6	
	外国語理解の能力	17	70.4	65.9	4.5	67.0	
	言語や文化についての知識・理解	10	70.1	66.5	3.6	66.9	
解答形式	選択式	21	71.8	67.9	3.9	69.0	
	短答式	5	72.9	66.0	6.9	68.2	
	記述式	6	47.9	42.5	5.4	36.7	

設問別正答率

通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域			出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		関	表	理	知			聞	読	書				
1	選択	○		◎			リスニング (内容理解)	○			絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(動作と物)	84.5	70.0	73.8
2	選択	○		◎				○			絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(したいことやほしい物)	86.2	90.0	91.9
3	選択	○		◎				○			絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(比較級・最上級)	71.3	70.0	70.8
4	選択	○		◎			リスニング (対話文の応答)	○			対話の内容を聞き取り、適切に回答することができる。(見せてくれませんかとたずねられて)	73.6	70.0	67.3
5	選択	○		◎				○			対話の内容を聞き取り、適切に回答することができる。(通学手段をたずねられて)	77.6	75.0	72.4



中3英語 B



通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域			出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均	
		関	表	理	知			聞	読	書					
6	選択	○		◎			リスニング (対話文の応答)	○			対話の内容を聞き取り、適切に回答することができる。(だれのギターかとたずねられて)	87.9	80.0	83.6	①
7	選択	○		◎		思	リスニング (さまざまな英文の聞き取り)	○			英文の概要を聞き取ることができる。	85.1	85.0	79.5	
8	選択	○		◎		思	リスニング (さまざまな英文の聞き取り)	○			英文の要点を聞き取ることができる。	72.4	60.0	66.9	
9	記述	○	○	◎		表	リスニング (対話文の応答)	○			対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答えることができる。	25.3	30.0	19.5	①
10	選択				◎		語形・語法の知識・理解		○		語形・語法を理解することができる。(be 動詞の過去形)	45.4	50.0	48.2	
11	選択				◎				○		語形・語法を理解することができる。(不定詞の副詞的用法)	55.2	55.0	51.5	
12	選択				◎				○		語形・語法を理解することができる。(must の否定文)	55.2	55.0	51.2	
13	選択				◎				○		語形・語法を理解することができる。(more を使った比較級)	71.3	75.0	72.3	
14	選択				◎		語彙の知識・理解		○		対話文の情報を正しく読み取ることができる。	74.7	70.0	68.5	
15	選択				◎				○		英文の情報を正しく読み取ることができる。	84.5	75.0	82.1	
16	選択			◎		思	さまざまな英文の読み取り		○		英文と情報・条件をもとに、適切なものを選ぶことができる。	90.8	80.0	90.9	
17	選択			◎		思			○		英文の情報・条件をもとに、適切なものを選ぶことができる。	85.6	75.0	84.5	
18	選択			◎		思			○		対話の流れと資料から、適切な語を判断することができる。	59.2	60.0	59.5	
19	選択			◎		思			○		対話の流れから、登場人物の適切な発言を判断することができる。	61.5	55.0	61.7	
20	選択			◎			長文の読み取り		○		下線部 that が指す内容を把握することができる。	60.9	65.0	63.4	
21	選択			◎					○		メールの内容を把握することができる。	60.3	50.0	49.6	
22	選択			◎					○			64.4	60.0	58.6	
23	短答		○	◎		思			○		読み取った内容をふまえて、英文を完成させることができる。	49.4	45.0	45.9	
24	短答		○		◎		単語の並べかえによる英作文			○	英文を正しい語順で書くことができる。(have to ~ の否定文)	83.9	75.0	73.2	
25	短答		○		◎					○	英文を正しい語順で書くことができる。(動名詞の疑問文)	90.8	75.0	77.7	
26	短答		○		◎					○	英文を正しい語順で書くことができる。(be going to の疑問文)	94.3	80.0	88.7	
27	短答		○		◎					○	英文を正しい語順で書くことができる。(look (SVC) の否定文)	46.0	55.0	55.7	
28	記述	○	◎			表	場面に応じて書く英作文			○	対話の流れに合った英文を書くことができる。(when を使ってときをたずねる)	27.6	30.0	21.2	

教育課程実施状況調査



通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域			出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均	
		関	表	理	知			聞	読	書					
29	記述	○	◎			表	場面に 応じて 書く英作文 3文以上の 英作文			○	対話の流れに合った英文を書くことができる。(whyを使って理由をたずねる)	22.4	30.0	14.2	②
30	記述	○	◎							○	一番好きな季節について、好きな理由や説明を含め、まとまった3文以上の英文を書くことができる。	63.2	55.0	51.8	
31	記述	○	◎			表				○		78.4	60.0	62.2	
32	記述	○	◎			表				○		70.7	50.0	51.3	②

①②は目標値を上回る設問を、①②は課題となる設問を示している。

【目標値を上回る設問】① 通し番号6

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	87.9	80.0	7.9	83.6	4.3	理	選択
問題の内容	リスニング（対話文の応答）						
出題のねらい	対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる。(だれのギターかとたずねられて)						

【目標値を上回る設問】② 通し番号32（テーマにそって、3文以上で書かれている。）

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	70.7	50.0	20.7	51.3	19.4	表	記述
問題の内容	3文以上の英作文						
出題のねらい	一番好きな季節について、好きな理由や説明を含め、まとまった3文以上の英文を書くことができる。						

【課題となる設問】① 通し番号9

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	25.3	30.0	-4.7	19.5	5.8	理	記述
問題の内容	リスニング（対話文の応答）						
出題のねらい	対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答えることができる。						

【課題となる設問】② 通し番号29

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	22.4	30.0	-7.6	14.2	8.2	表	記述
問題の内容	場面に 応じて 書く英作文						
出題のねらい	対話の流れに合った英文を書くことができる。(whyを使って理由をたずねる)						



授業改善の POINT

○調査結果をふり返っての考察

ほぼ全ての項目において、目標値と全国平均を上回っていて、いずれの観点・領域においても、高い正答率を示している。特に、「聞くこと」「読むこと」の領域における「外国語理解」の部分で高い正答率を示しており、小学校外国語の活動から英語を聞く場面に多く触れることで、英語を聞くことに慣れつつあることや、読む力を身に付けるために必要となる教科書等を読解するような場面における授業方法の改善等、様々な取組が成果となって表れて来たといえる。「外国語表現」において高い正答率を示しているのも、小学校の段階から英語を使って話す場面を多く経験し、英語で表現する活動に慣れつつあることが成果として表れて来ているといえる。また経年的に課題の見られる領域である「書くこと」についても改善傾向がみられた。

しかし、複数の領域を統合させながら書いて解答するような問題において、課題がある。特に聞いたことをもとに書く場面や対話の流れに沿って書く場面など、複数の領域を活用させながら最終的に英語で書いてまとめるような力にはまだまだ課題が多く残っているといえる。

以上の考察をもとに、3つの視点から授業改善のポイントを示す。

○授業改善のポイント

「複数の領域を統合させながら、最終的に書いてまとめる力」を高めるために

(1) 日々の授業で複数の領域を統合させた活動を意図的に取り入れる

例えば、教科書等の内容について、読んだことをもとに自分の意見や感想を友達と話す。話したことをもとに、友達の考えも参考にしながら、自分の意見や感想を書いてまとめるような活動を行う。

(2) 教師の発問などを有効的に活用しながら、書く活動はステップを踏んで取り組む

例えば、書く活動を行う際に、いきなり題材を与えるのではなく、教師の発問を有効的に与えながら、やり取りをしていく中で、つながりのあるまとまった英文を書くことができるようなステップを踏んだ場面を作る。

(3) 書いた英文を自分たちで確認し、間違いに気付く場面を設定する

例えば、完成した英文をペアやグループ等でお互いに読み合い、間違いがないか確認し合う。特に多く見られるような特徴的な間違いは教師がクラス全体で取り上げ、共有するなどしながら、英文を自分たちの力で修正し完成していくような場面を作る。